

工作機械工業 収益状況集計

(2023年度 第2四半期)

会員企業のうち2023年11月迄に2023年度第2四半期決算を公表している専業比率30%以上の上場企業14社を集計。集計調査対象企業における専業比率は84.0%。なお、今期は前年度末と同社の14社で集計した。

1. 連結決算の概要

表1 連結決算の概要(14社)

(単位：百万円・%)

	23年度	23年度	23年度	前年同期比	22年度
	I期	II期	I～II期		I～II期
売上高	196,719	215,720	412,439	+3.2	399,795
売上総利益	61,654	65,532	127,186	+5.6	120,421
売上総利益率	31.3	30.4	30.8		30.1
営業利益	17,100	16,983	34,083	+7.4	31,722
営業利益率	8.7	7.9	8.3		7.9
経常利益	20,111	18,438	38,549	△1.3	39,048
経常利益率	10.2	8.5	9.3		9.8
当期利益	14,518	11,751	26,269	△4.7	27,556
当期利益率	7.4	5.4	6.4		6.9
総資産	1,203,882	1,208,425	1,208,425	+2.3	1,180,932
純資産	763,520	782,948	782,948	+8.7	719,973
自己資本比率	63.4	64.8	64.8		61.0
自己資本 当期純利益率 (ROE)	7.6	6.0	6.7		7.7

(注) 自己資本当期純利益率 (ROE) は年率換算値

表2 損益状況一覧 (連結・I～II期計・前年同期比) (14社)

(単位:社)

	増加	減少	合計
売上高	11	3	14
売上総利益	9 (0)	5 (0)	14 (0)
営業利益	9 (0)	5 (2)	14 (2)
経常利益	8 (0)	6 (2)	14 (2)
当期利益	6 (0)	8 (3)	14 (3)

※()内の数字は、赤字企業数。赤字幅が縮小した場合は「増加」、赤字幅が拡大した場合は「減少」となる

2. 2023年度通期見通しの概要

表3 【第2四半期時点】連結業績予想の概要（14社）

（単位：百万円・％）

	2023年度通期見通し			2022年度実績
	第1四半期時点	第2四半期時点	前年度比	金額、比率
売上高	847,446	831,946	△3.0	858,117
営業利益	70,729	66,259	△14.9	77,902
営業利益率	8.3	8.0		9.1
経常利益	74,894	71,834	△16.4	85,974
経常利益率	8.8	8.6		10.0
当期利益	54,426	51,146	△18.4	62,679
当期利益率	6.4	6.1		7.3

表4 【第2四半期時点】連結業績予想の増減（売上高、経常利益）（14社）

通期 (対前年度比)	増収増益	7社 (増減なし)	増収減益	1社 (2社減)
		減収増益	0社 (増減なし)	減収減益

◎第1四半期時点からの修正理由

【売上高は下方修正、経常利益は上方修正 …2社】

- 売上高は、他事業の増収効果があるものの、工作機械関連の売上減少などの減収要因があり、前回予想を下回る見通し。営業利益は、円安による輸出採算の改善の影響により増収となると想定されることから、上方修正。また、営業外収益に為替差益、受取配当金を計上したことなどにより、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益も前回予想を上回る見通し。
- 今後の世界経済については、グローバルでの地政学リスクやインフレ、各国の金融政策などによる景気減速の懸念など、依然として先行き不透明な経済情勢が続くものと予想している。このような状況のなか、通期の連結業績は、第2四半期累計期間の業績を踏まえ修正。予想の前提となる下期の為替レートは1ドル=130円、1ユーロ=145円を想定。

【売上高、経常利益とも下方修正 …3社】

- 売上高は、工作機械関連事業において国内外の展示会に積極的に出展するなど拡販に努めたが、国内及び中国を含むアジア地域において販売が当初の想定より落ち込み、減少する見込みとなった。利益は、工作機械関連事業における売上高が想定を下回ったことにより、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益がいずれも前回予想を下回る見込みとなった。
- 第2四半期累計期間の業績は、日本、中華圏、アジア地域において、スマートフォン及び電子部品向けの需要が減少したこと等により、当初計画を下回った。利益面においても、販売減少及び生産調整に伴う工場の収益性低下や、前期より継続する原材料価格等の高騰の影響に加え、ベースアップや賞与の見直しなどによる人件費の増加もあり、営業損失となった。通期業績予想については、売上高は他事業で案件が進捗する見込みだが、工作機械事業及び産業機械事業においては、厳しい状況が継続する見込みで、期初予想を下回る見込み。利益面においては、生産調整は一巡し、工場稼働率は回復に向かうと見ているが、原材料価格等の高騰及び高水準な人件費の継続などを鑑み、

下方修正。予想の前提となる下期の為替レートは1ドル=145円、1ユーロ=157円を想定。
 ○第2四半期累計期間の業績は、売上高は概ね前回予想通りで推移したものの、プロダクトミックスの悪化に加え、市況の低迷による生産調整、価格転嫁の遅れ等もあり、各段階利益とも前回予想を下回る結果となった。下半期は、売上高が上半期を上回る予想としており、各段階利益は、概ね前回予想並みになるものと予想し、通期業績予想数値を修正。

3. 工作機械事業セグメントの概要

表5 工作機械事業セグメントの概要 (14社)

(単位:百万円・%)

	23年度		22年度 I～II期
	I～II期	前年同期比	
売上高	346,573	+1.7	340,854
営業利益	30,974	+7.5	28,821
営業利益率	8.9		8.5
専業比率	84.0		85.3

表6 【参考】工作機械事業セグメントの概要 (24社)

(単位:百万円・%)

	23年度		22年度 I～II期
	I～II期	前年同期比	
売上高	477,493	+4.2	458,302
営業利益	43,259	+11.1	38,948
営業利益率	9.1		8.5
専業比率	32.4		32.9

※表5の対象企業14社に加え、セグメント情報を公表している
 専業比率30%以下の会員企業10社を加えた24社で集計

【調査対象会員企業 (順不同)】

(専業比率30%以上の集計対象企業)

エンシュウ株式会社
 浜井産業株式会社
 豊和工業株式会社
 小池酸素工業株式会社
 株式会社牧野フライス製作所
 株式会社岡本工作機械製作所
 オークマ株式会社
 西部電機株式会社
 株式会社ソディック
 スター精密株式会社
 株式会社太陽工機
 高松機械工業株式会社
 株式会社 TAKISAWA
 株式会社和井田製作所

(専業比率30%以下の集計対象企業)

シチズンマシナリー株式会社 (シチズン時計株式会社)
 株式会社FUJI
 株式会社不二越
 倉敷機械株式会社 (倉敷紡績株式会社)
 黒田精工株式会社
 ミロク機械株式会社 (株式会社ミロク)
 株式会社三井ハイテック
 株式会社オーエム製作所 (ダイワボウホールディングス)
 株式会社桜井製作所
 芝浦機械株式会社